

花王×ChatSense「研究データアシスタント」深掘り調査

ー 研究データ×生成 AI 活用の他社動向と今後の展望 ー

2026 年 10 月 24 日

Claude Opus 5.5

対象記事：ナレッジセンス「花王、ChatSense を導入。膨大な『研究データ』を生成 AI で探索可能に。新時代のデータ活用術」^[1] / 凡例：【事実】一次情報等で確認した事項、【分析】【推測】筆者の評価・見通し。上付き番号は文末の参考文献に対応。

要旨

- ・ **【事実】** 花王は 2025 年、SaaS「ChatSense」を用いた「研究データアシスタント」を研究開発部門全体に展開した（提供元のナレッジセンスが 2026 年 10 月 22 日に発表）^[1,2]。全社標準の Box 上にある研究報告書（図表入りの大容量文書）をそのまま参照でき、他研究所の「思いもよらない知見」への到達、異動直後の知見把握、新研究テーマの提案といった定性的効果が報告されている^[1]。利用人数・時間短縮率などの定量効果、Box の権限連携方式、採用 LLM は公表されていない。
- ・ **【分析】** 本件は、統合レポート 2026 が掲げる「技術を領域を超えて展開し、知財とノウハウで体系的に蓄積する」研究戦略^[3]を、文書知の側から支える施策である。全社生成 AI、データ基盤 Kao i-Lake、MI（マテリアルズ・インフォマティクス）、AI ガバナンス方針と並ぶ一層と位置づけられる。
- ・ **【事実】** 国内ではライオン・資生堂・住友化学・旭化成・中外製薬など、海外では BASF・ユニリーバが同種の取り組みを先行させている（第 4 章）。
- ・ **【推測】** 2～3 年以内に研究文書 RAG は、①社内報告書・実験データ・特許 DB を横断する「研究エージェント」、②MI・自律実験との連携、③発明発掘・先行技術調査など知財業務との接続へ進むと見込まれる。差別化要因はツールではなく、研究データの構造化・権限設計・営業秘密管理に移る。

1. 花王事例の整理

【事実】ナレッジセンスの公式事例ページおよびプレスリリースに基づき、主要項目を整理する。

項目	内容	出典
発表日	2026 年 10 月 22 日（ナレッジセンスのプレスリリース）	[2]
展開時期	2025 年、「研究データアシスタント」として研究開発部門全体に展開	[1]
対象部門	研究開発部門全体。コメントは研究開発部門 研究運営・管理部の岸本秀幸氏	[1,2]
課題	①長年蓄積した研究報告書が膨大で、キーワード検索では目当ての知見にたどり着きにくい ②異分野研究の「融合」で新製品を生んできたが、専門外の報告書を読み込む負担が大きく、知見を活かしきれていなかった ③「検索」に加え、想定外の知見と出会う「探索」の仕組みが必要だった	[1]
解決策・機能	SaaS の ChatSense を採用。画像・表・グラフを含む大容量の報告書を生成 AI の参照データとした。全社標準のコンテンツクラウド「Box」上の報告書を、アップロードし直さずにそのまま活用。導入理由欄は「社内データ活用／Box 連携／大容量データ対応」	[1]
導入判断	ゼロから開発する場合と比べ、低コストかつ短期間で本番導入	[1]
使い方	あいまいな質問からでも関連知見を得て、回答を起点に対話を重ねながら理解を深める（岸本氏）	[1]
効果（定性）	専門・所属の壁を越えて他研究所の「思いもよらない知見」に到達／異動直後の研究員が担当分野の過去の知見を短時間で把握／AI との対話からの気づきが新研究テーマの提案につながる事例も出始めた	[1,2]
効果（定量）	未公表（検索時間削減率、利用者数、問い合わせ件数などの記載なし）	—
利用規模	「研究開発部門全体」との表現のみ。人数は未公表	—
セキュリティ	花王固有の設計（Box のアクセス権継承、データ所在地、ログ監査など）は未公表。リリースには、チャット内容を AI 学習から守る機能など ChatSense の一般機能の説明のみ	[2]
今後	「研究所や商品カテゴリーを越えて知見をつなぎ、花王だからこそ生み出せる価値につなげていきたい」（岸本氏）	[1]

裏付けの範囲

【事実】本件の一次情報はナレッジセンス側（公式事例ページ、PR TIMES）のみで、花王自身の公式ニュースリリースは確認できなかった。マイナビニュース（TECH+）と ZDNET Japan（Yahoo!ニュース転載）の記事は同リリースに基づく報道であり^[4,5]、独自取材による追加情報は確認できていない。

【分析】展開（2025 年）と発表（2026 年 10 月）の間に約 1 年の差があることから、発表時点で一定期間の運用実績があると読める。ただしベンダー事例は成功面を強調しやすい性質がある点に留意が必要である。

2. ChatSense／ナレッジセンスの製品概要

- ・ **企業**：株式会社ナレッジセンス（東京都港区、代表取締役 CEO 門脇敦司、2019 年 4 月 10 日設立、資本金 2,600 万円、未上場）。事業は ChatSense、生成 AI テストサービス「Ozone」、生成 AI を活用した DX 戦略コンサルティングなど^[2]。
- ・ **導入実績**：「東証プライム上場企業・国内最大級の総合大学を含む、500 社以上」^[2]。同社の公表値であり、第三者による検証はない。
- ・ **特徴**：チャット内容を AI の学習から守る機能（全プラン共通）、プロンプトの社内共有、メンバー一括管理、初期費用無料・最低利用期間なし^[2]。
- ・ **RAG・データ連携**：RAG は有料の「追加学習」オプション。テキスト、PDF、Excel、Word、PowerPoint、CSV、HTML、URL のほか、OneDrive、SharePoint Online、Box 内のファイルを参照でき、Slack 連携も追加された^[6]。
- ・ **料金**：エンタープライズは個別見積もり、ビジネスは 1 ユーザー月額 980 円（税別）、スターターは無料、RAG オプション「追加学習」は月額 9 万 8,000 円（2025 年時点の報道）^[6]。料金比較サイトはエンタープライズに Azure OpenAI（東日本リージョン）対応を含むとするが、二次情報であり最新の公式料金は要確認^[7]。
- ・ **他の製造業導入例**：味の素冷凍食品が ChatSense を全社導入している^[8]。R&D 部門では過去の膨大なレシピを学習させた専用 AI を構築し、2025 年 12 月時点で月間 6,800 時間以上の業務削減効果を記録したとされる^[9,10]。

3. 花王全体の戦略の中での位置づけ

3.1 一次情報で確認できる事実

- ・ **統合レポート 2026（2025 年 12 月期）**：CEO メッセージは「技術・データ・AI を融合させることで、花王ならではの競争優位を一層強化」と述べ、研究開発・マーケティング・サプライ

チェーンでの AI 投資拡大を明言している。研究戦略では、技術を特定の事業・用途にとどめず領域を超えて展開し、その循環を知財とノウハウで体系的に蓄積して「排他的独自性」を確立するとしている。知的資本の指標は特許保有件数 13,419 件、研究開発費 611 億円、海外研究拠点 17 カ所。シチズンデベロッパーは 4,700 人を突破し、マテリアリティには「AI/デジタル社会への対応」が入る^[3]。

- ・ **社長スモールミーティング（2025 年 11 月 20 日）**：長谷部社長は、AI 活用のポイントは良質なデータのみを入れることであり、データを絞るとアウトプットの質が格段に上がると述べている^[11]。
- ・ **MI**：花王は試行錯誤型の実験からデータと AI を活用したデータ駆動型研究への変革を掲げ、高活性触媒の開発や界面活性剤の最適な組み合わせ提案に MI を用いている^[12]。2020 年 12 月 25 日には、少量データからガラス転移点を予測する深層学習手法を発表した^[13]。
- ・ **社内生成 AI・データ基盤**：Azure OpenAI Service ベースの「Kao AI Tools」を 2023 年 6 月に利用ガイドラインと同時に提供開始。データ基盤「Kao i-Lake」は 2020 年 4 月に構築を開始し、2021 年 2 月にリリースされた^[14]。
- ・ **AI ガバナンス方針**：「花王 AI ガバナンス方針」は 2026 年 6 月 29 日に制定され（経営会議の下部組織であるコーポレートコミッティで承認）、同年 7 月に公表された^[15,16]。6 原則は、人権の尊重と公平性／法令遵守と権利保護／プライバシー権の尊重／AI のセキュリティ／責任ある AI 活用／AI の透明性。AI システムを適切な人間の関与なしに自律的な意思決定に使用しないと明記している。本文に「知的財産」の語はなく、権利保護は第三者の権利（学習データ・出力の類似）の観点で書かれており、AI 関与発明の発明者性には触れていない^[15]。

3.2 二次情報（裏付けが弱いもの）

- ・ 社内生成 AI「Kao AI Chat」を毎日 2,000 人以上が利用し、Claude・Gemini などのモデル追加、ディープリサーチ機能、AI エージェントの提供が予定されているとする報道がある（2025 年 11 月のインタビュー記事）^[17]。
- ・ グローバル約 16,000 人が利用とする民間ブログもあるが、出典が弱く参考値にとどまる^[18]。

3.3 分析

【分析】花王の AI 活用は、①全社汎用の生成 AI（Kao AI Chat／Copilot）、②構造化データと MI・マーケティング AI（Kao i-Lake、MI など）、③本件の研究文書 RAG（ChatSense）の三層構造と整理できる。③は「異分野融合で排他的独自性を作る」研究戦略に直結するが、汎用基盤①とは別に SaaS を採用した。Box 連携と図表入り大容量文書への対応を理由に挙げていることから、「作るより早く使う」判断と読める。

【推測】今後は、①のエージェント化構想と③の統合、あるいはベンダー併存の整理が論点になる可能性がある。

4. 他社の同様の取り組み

4.1 比較表

【事実】各社の公表情報・報道に基づく。出典欄の番号は参考文献に対応する。

企業	時期	ツール／ベンダー	対象データ	目的・効果（公表値）	出典
花王	2025 年展開 2026 年 10 月発表	ChatSense（SaaS、Box 連携 RAG）	研究報告書（図表入り大容量）	異分野知見の探索、異動者のキャッチアップ。定量値は未公表	[1,2]
ライオン	2023 年 12 月開発発表 2024 年 8 月実装	内製「LINK Chat」（生成 AI＋検索）。2025 年に「LION LLM」（Qwen2.5-7B の追加学習、AWS 協力）	研究報告書、会議資料、製品組成情報、品質評価データ	文書取得時間が約 1/5 に。LLM で回答の網羅性が向上。ファクトは RAG、LLM は網羅性という役割分担	[19-22]
資生堂	2024 年 2 月本格稼働 2026 年 1 月第 1 号製品を発表	「VOYAGER」（処方開発 AI 機能はアクセンチュアと共同開発、プラットフォーム開発は CTC）	50 万を超える処方・研究知見	異分野技術（クレンジング×スキンケア）を掛け合わせた試作処方に成功。VOYAGER を活用した第 1 号製品を 2026 年夏に発売予定	[23,24]
住友化学	2023 年 10 月	内製「ChatSCC」（ChatGPT ベース）＋ナレッジマイニング	研究開発データ、社内規定、安全情報、報告書	約 6,500 名の全従業員が対象。事前検証で最大 50%以上の効率化。独自データ連携・特化型モデルを予定	[25,26]
旭化成	2023 年 6 月全社導入 2024 年 12 月業務特化型本格化	Microsoft 365 Copilot、社内生成 AI 基盤、自社開発の用途抽出 AI	技術文書、文献、危険事例	汎用用途で月 2,157 時間削減。新規用途探索・技術伝承に適用	[27-29]

企業	時期	ツール／ベンダー	対象データ	目的・効果（公表値）	出典
三井化学	2022 年 6 月 Watson 全社展開 2023 年 4 月 GPT 融合の検証 開始	IBM Watson＋生成 AI（GPT）	特許・ニュース・ SNS（1 テーマ 500 万件以上）、自社 辞書	20 以上の事業部門で 100 以上の新規 用途を発見（2023 年 4 月時点）。 GPT 融合の 4 か月の実証で辞書作成 数が約 10 倍、新規用途の発見数が約 2 倍	[30,31]
中外製薬	2024 年～	内製「Chugai AI Assistant」 （RAG）、Google Cloud	社内文書、SOP、 過去資料	5,000 人以上が利用（毎日 1,000～ 1,500 人）。研究開発・臨床の暗黙知 を引き出す RAG を検討中	[32-34]
富士フイル ム HD	2024 年～（2025 年に AIChat／ AIHub を展開と 報道）	内製「Fujifilm AIChat／AIHub」	論文、社内ナレッ ジ、素材データ	素材探索に生成 AI を活用（CDO イ ンタビュー）。AI エージェント 1,000 件超の稼働、R&D の論文分 析・社内ナレッジ検索エージェント は報道ベースで未検証	[35,36]
パナソニッ ク	2023 年 4 月 PX- AI 2023 年 10 月 PX-AI Plus （RAG）	Azure OpenAI（内 製）。コネクトはナ レッジグラフ RAG＋ 観察駆動型エージェ ント（ACL 2024 採 択）	社内文書、図面、 仕様書、業務シス テムデータ	コネクトは AI 活用で総労働時間 3.4%削減。2030 年に 10%削減を目標	[37-40]
味の素グル ープ	2024 年～（冷凍 食品） 2026 年 1～3 月 （本社データガ バナンス）	ChatSense（冷凍食 品）、EY 支援（本 社）	過去レシピ （R&D）、非構造 化データ全般	冷凍食品は月 6,800 時間超の削減。本 社は RAG 前提で非構造化データの利 用基準を整備	[8,9,41,42]
BASF	2023 年 4 月～	自社「QKnows」	文献・特許・社内 研究報告書（4 億 件超）	自然言語での横断検索。reasoning モ ード・deep research モードを搭載	[43,44]
ユニリーバ	2026 年 4 月公表	自社「R&D Assistant」（AI エ ージェント）	1 世紀以上の研究 に由来する 15 万件 超の科学文書	世界各地の研究者が各自の言語で知 見を照会可能。インサイト分析 60% 高速化、処方サイクル 5～6 回→1～2 回（同社公表値）	[45]
P&G	2023 年 2 月ベ ータ 2023 年 9 月正式	OpenAI API ベース の社内生成 AI 「chatPG」	社内全般（R&D 特 化かは不明）	35 以上のユースケースで社内データ と組み合わせて活用。利用者 3 万 人、利用前にガバナンス研修の合格 が必要	[46,47]

※ 旭化成の「6,000 以上の用途候補」「選別時間約 40%」は事例 DB サイト掲載の二次情報で、一次情報では確認できていない^[48]。P&G の R&D での処方 DB 活用は二次情報のみで未検証。

4.2 市場動向

- ・ **【事実】国内 RAG SaaS**：ChatSense、exaBase、OfficeBot など「社内文書アップロード型」が乱立し、低価格化が進んでいる^[49]。
- ・ **【分析】**差別化軸は、ストレージ連携（Box／SharePoint）、図表入り PDF の読解、権限継承、エージェント機能に移っている。
- ・ **【事実】研究開発特化型**：ストックマークの製造業向け AI エージェント「Aconnect」は 2025 年 10 月に技術探索・特許調査エージェントを搭載し^[50]、2026 年 2 月 19 日に社内文書と連携する「社内情報連携機能」を PoC として提供開始した^[51]。同年 5 月には「解決策比較（ β ）」を追加したと報じられている^[52]。 **【分析】**「外部の論文・特許＋社内文書」を統合した探索が製品カテゴリとして成立しつつある。
- ・ **【事実】ELN／LIMS 連携**：国内大手が生成 AI と ELN・LIMS を直結させた公表事例は、今回の調査では確認できなかった。
- ・ **【事実】市場規模**：国内 RAG・研究開発 AI 市場の信頼できる定量予測は、今回入手できなかった。

5. 現状の到達点と課題

5.1 到達点

- (1) **「読む」コストの削減は実証段階を終えた**：ライオンの文書取得時間約 1/5^[19]、中外製薬の 5,000 人超利用^[32]など、検索・要約による時間短縮は再現性のある効果になっている。
- (2) **価値の重心が「効率」から「発見」へ**：花王（思いもよらない知見、新テーマ提案）^[1]や資生堂（異分野処方への掛け合わせ）^[23]のように、異分野融合による新価値創出をうたう事例が増えている。
- (3) **作り方の二極化**：内製（ライオン、住友化学、中外製薬、富士フイルム、BASF）と SaaS 活用（花王、味の素冷凍食品）に分かれる。 **【分析】**花王クラスの大企業が SaaS を選んだ点は、RAG 基盤のコモディティ化を示唆する。

5.2 課題

- ・ **データの構造化・暗黙知**：報告書に書かれていない失敗の理由や判断根拠は検索できない。ライオンの追加学習 LLM^[21]や資生堂のノウハウ DB 化^[23]は、この限界への対応とみられる。
- ・ **ハルシネーションと根拠提示**：研究判断に使うには、出典文書・ページへのトレース可能性が必須である。
- ・ **権限管理・機密保持**：EY は味の素のプロジェクトに関し、生成 AI は権限範囲を網羅的に探索するため、これまで表に出ていなかったファイルまで回答に含める可能性がある^[42]と指摘している。
【分析】 研究報告書は営業秘密そのものであり、Box 側のアクセス権が適切でなければ RAG が「漏洩の増幅器」になり得る。
- ・ **評価指標・ROI**：花王を含め、多くの事例で「発見」の価値は定量化されていない。利用率や時間短縮は測れても、新テーマ創出・上市への寄与は測りにくい。
- ・ **現場定着**：住友化学のプロンプト集^[25]、味の素冷凍食品の社内事例共有^[8]など、定着策がセットで語られている点が共通する。

6. 今後の展開（推測）

【推測】 以下は公表情報を踏まえた筆者の見通しであり、各社の公表計画ではない。

- (1) **RAG から研究エージェントへ（1～2 年）**：ChatSense は 2025 年 5 月、Web 検索を自律的に繰り返してレポートを作成する「Deep Research」機能（ベータ版）を追加した^[53]。花王は Kao AI Chat のエージェント化を予定しているとされる^[17]。BASF も deep research モードを搭載済みである^[43]。社内報告書と外部の論文・特許を横断し、仮説と実験案を提示する機能が標準になるとみられる。
- (2) **MI・自律実験との統合（2～4 年）**：資生堂の VOYAGER による処方開発^[24]、富士フイルムの MI×生成 AI^[35]のように、文書知（RAG）と数値データ（MI）を接続する動きが加速する。花王は MI と Kao i-Lake を持つため^[12,14]、研究報告書 RAG との接続が次の論点になる可能性が高い。
- (3) **知財業務との連携**：Aconnect の特許調査エージェント^[50]のように、先行技術調査・発明発掘・クレーム案作成への適用が広がる。社内報告書 RAG は「埋もれた発明の掘り起こし」と「自社公知例の確認」の両方に使える。

- (4) **研究データの資産化と開示**：花王は統合レポートで「知・データ」を価値創造の循環に位置づけている^[3]。研究データ基盤や AI 活用度が、知的資本の開示項目（データ量、活用率、AI 経由の創出テーマ数など）として求められる方向に進むと考えられる。
- (5) **ベンダー構図**：汎用 RAG SaaS は低価格化し、研究開発特化型（外部特許・論文 DB 込み）と大手内製基盤（富士フイルム AIHub 型）に分化するとみられる。

7. 知財戦略の観点からの示唆

- (1) **研究データのオープン・クローズを再設計する**：研究報告書の多くはノウハウ秘匿（クローズ）の対象である。RAG 化で社内流通性が上がる以上、特許化すべき技術（公開・権利化）と秘匿すべき処方・条件（営業秘密）の切り分けを、RAG 投入前の分類段階で行うべきである。
- (2) **営業秘密の「秘密管理性」を維持する**：不正競争防止法上の保護には、アクセス制限と秘密表示による管理が前提となる。RAG の参照範囲を元文書の権限と厳密に一致させ、回答ログを監査可能にしておかないと、秘密管理性の主張が弱まるおそれがある（一般論としての分析）。
- (3) **AI 関与発明の扱いを社内規程に明記する**：【事実】知財高裁は 2025 年 1 月 30 日の DABUS 事件判決（令和 6 年（行コ）第 10006 号）で、現行特許法上の発明者は自然人であることが前提として、AI を発明者とする出願を認めなかった^[54,55]。最高裁は 2026 年 3 月 4 日に上告不受理とし、判断が確定したと報じられている^[56,57]。【分析】AI との対話から生まれたアイデアは、研究者の着想・寄与を記録し（発明届、対話ログの保存）、自然人の発明として成立させる運用が必要である。花王の AI ガバナンス方針はこの点に触れていないため^[15]、知財部門の個別規程で補完すべきである。
- (4) **RAG を発明発掘の起点に使う**：「他研究所の思いもよらない知見」の結合は、それ自体が新規発明の種である。研究データアシスタントの利用ログから知財部が発明候補を拾い上げる仕組みは、費用対効果が高いと考えられる。
- (5) **ベンダー契約を確認する**：外部 SaaS に研究報告書を参照させる場合、入力・出力データの二次利用禁止、データ所在地、解約時のインデックス削除、障害・漏洩時の責任分界を契約で明確化すべきである。

8. 留意事項

- ・ 花王事例の情報源はナレッジセンス（ベンダー）の公式事例ページとプレスリリースに限られ、花王自身の公式発表は確認できていない。
- ・ 定量効果、利用人数、Box の権限連携の仕組み、採用 LLM は未公表である。
- ・ 「Kao AI Chat」の利用者数（毎日 2,000 人以上、グローバル約 16,000 人）は二次情報である。
- ・ 旭化成の用途候補数・選別時間短縮は二次情報、P&G の R&D での活用詳細は未検証である。ユニリーバの効果（インサイト分析の 60%高速化、処方サイクルの 5～6 回から 1～2 回への短縮、訴求表現生成の 75%高速化）と研究者数（約 4,500 人）は同社公式記事の自社公表値で、第三者検証はない^[45]。
- ・ パナソニックの社内 AI 導入時期（PX-AI 等）と富士フイルムの 2025 年以降の展開は、本文を取得できなかった報道に依拠しており未検証である。
- ・ DABUS 事件の最高裁上告不受理は報道ベースであり、最高裁公式サイトでの掲載は確認できていない。
- ・ 国内の RAG・研究開発 AI 市場規模の定量データは、今回取得できなかった。
- ・ 第 6 章・第 7 章は筆者の分析・推測であり、各社の公表計画ではない。

参考文献

※ 番号は本文中の初出順。URL はいずれも 2026 年 10 月 24 日時点で参照。【二次】は報道・二次情報、【未検証】は URL または内容を本書作成時に直接確認できなかったものを示す。

- [1] 株式会社ナレッジセンス「花王、ChatSense を導入。膨大な『研究データ』を生成 AI で探索可能に。新時代のデータ活用術」ChatSense 導入事例（掲載日の表示なし）。<https://chatsense.jp/case/kao>
- [2] 株式会社ナレッジセンス「法人向け生成 AI『ChatSense』を花王株式会社が導入」PR TIMES, 2026 年 10 月 22 日。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000427.000073671.html>
- [3] 花王株式会社『統合レポート 2026』（2025 年 12 月期）。<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/investor-relations/pdf/kao-reports-fy2026-jp.pdf>
- [4] マイナビニュース TECH+編集部「花王、法人向け生成 AI『ChatSense』を導入 - 研究部門全体で過去の知見を探索」マイナビニュース TECH+, 2026 年 10 月 22 日。【二次】<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20261022-5172993/>

- [5] ZDNET Japan「花王、法人向け生成 AI『ChatSense』を導入--研究所や商品カテゴリ越え知見を横展開」Yahoo!ニュース転載（配信日未確認）．【二次】【未検証：ページ本体を取得できず、表題は検索結果の表示による】 <https://news.yahoo.co.jp/articles/2d934ddc056588e1b760509bff95df683c21b38c>
- [6] 日川佳三「RAG 対応 ChatGPT『ChatSense』が Slack と連携、Slack のデータと同期して RAG を自動更新—ナレッジセンス」IT Leaders, 2025 年 5 月 2 日．【二次】 <https://it.impress.co.jp/articles/-/27826>
- [7] コプラス株式会社「ChatSense の料金 | 980 円に含まれる量」（情報確認日 2026 年 9 月 8 日）．【二次】 <https://coplus-one.jp/chatsense-ryokin/>
- [8] 株式会社ナレッジセンス「味の素冷凍食品、ChatSense を全社導入。スモールな検証で見た生成 AI の『手応え』、全社展開の戦略」ChatSense 導入事例（掲載日の表示なし）． <https://chatsense.jp/case/ajinomoto-reito>
- [9] CaseHUB.News「味の素冷凍食品、生成 AI 利用率 80%超 自社主導の教育で月 6800 時間削減」2026 年 2 月 18 日．【二次】 <https://casehub.news/category/news/ai806800.html>
- [10] 味の素冷凍食品株式会社「『生成 AI が当たり前』の職場へ／自社 IT 部門主導で利用率 80%超を達成！／社内教育とベンダーとの共創で全社・全部署利用を実現」ニュースリリース, 2026 年 2 月 18 日． https://www.ffa.ajinomoto.com/_var/pdf/20260218_1.pdf
- [11] 花王株式会社「2025 年 11 月 社長スモールミーティング要旨」（開催日 2025 年 11 月 20 日）． <https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/investor-relations/pdf/kao-ir2025-03-qa-jp.pdf>
- [12] 花王株式会社「データサイエンスによる材料・処方開発」花王公式サイト（掲載日の表示なし）． <https://www.kao.com/jp/innovation/research-development/fundamental/material-science/data-science/>
- [13] 花王株式会社「ディープラーニング技術を用いた新素材開発手法の開発」ニュースリリース, 2020 年 12 月 25 日． <https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2020/20201225-001/>
- [14] 日本マイクロソフト「花王の DX 戦略 - DXAP で進める人財育成の現在地、Microsoft 製品群の統合活用で DX 推進を加速」Microsoft お客様導入事例, 2024 年 12 月 3 日． <https://www.microsoft.com/ja-jp/customers/story/18779-kao-corporation-microsoft-365-copilot>
- [15] 花王株式会社「花王 AI ガバナンス方針」（2026 年 6 月 29 日制定）． <https://www.kao.com/jp/corporate/policies/ai/policy/>
- [16] 週刊粧業「AI 活用は『管理』のフェーズへ—花王が AI ガバナンス策定、管理体制整備の方向性示す」週刊粧業オンライン, 2026 年 8 月 3 日．【二次】 https://www.syogyo.jp/news/2026/08/post_044468
- [17] AI 経営総合研究所（株式会社 SHIFT AI）「毎日 2000 人以上の社員が活用する花王の生成 AI 事情——目指すは『DX という言葉をなくす』未来」2025 年 11 月 14 日（同年 12 月 11 日更新）．【二次】 <https://ai-keiei.shift-ai.co.jp/interview-f7-kao/>
- [18] ウィルダー株式会社「【花王 AI 活用】経費自動化から肌 AI まで！三層 DX 戦略の全貌と成果を徹底解説」willeder blog, 2026 年 6 月 12 日．【二次】 <https://blog.willeder.com/kao/>
- [19] 山岡晋太郎（ライオン株式会社デジタル戦略部）「ライオンの生成 AI の導入と人材育成について」労働政策研究・研修機構 第 143 回労働政策フォーラム配布資料, 2026 年 1 月 20 日． https://www.jil.go.jp/event/ro_forum/20260120/resume/02-report-yamaoka.pdf
- [20] IT Leaders「ライオン、研究データを追加学習した生成 AI モデル『LION LLM』の構築に着手」2025 年 10 月 8 日．【二次】 <https://it.impress.co.jp/articles/-/28463>

- [21] EnterpriseZine「消えゆく熟練の“暗黙知”に歯止め……ライオンが 7B 規模の『小型 LLM』開発で知識継承の仕組み化に挑む」（掲載日未確認）．【二次】【未検証：本文を取得できず、表題は検索結果の表示による】
<https://enterprisezine.jp/article/detail/24226>
- [22] IoTNEWS AI+「ライオンが生成 AI と検索システムを用いた『知識伝承の AI 化』ツールを開発、検証を完了」
2023 年 12 月 11 日．【二次】<https://iotnews.jp/ai/239309/>
- [23] 株式会社資生堂「資生堂、100 年にわたる研究の蓄積と先進 AI 技術を融合し共創から生まれる革新的な化粧品開発の新時代へ」ニュースリリース, 2024 年 9 月 26 日．
<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003893>
- [24] 株式会社資生堂「資生堂、処方開発 AI『VOYAGER（ヴォイジャー）』を活用し第 1 号のユニークな化粧品開発に成功」ニュースリリース, 2026 年 1 月 20 日．<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000004127>
- [25] 住友化学株式会社「社内向け生成 AI サービス『ChatSCC』の運用を開始 ～飛躍的生産性向上と独自データの有効活用を目指す～」ニュースリリース, 2023 年 10 月 24 日．<https://www.sumitomo-chem.co.jp/news/detail/20231024.html>
- [26] 住友化学株式会社「当社の変革と成長を加速させる DX 戦略」『住友化学レポート 2024』．
https://www.sumitomo-chem.co.jp/ir/library/annual_report/files/docs/scr2024_16.pdf
- [27] IT Leaders「旭化成、材料の新規用途探索や製造現場の技術伝承などに生成 AI を活用」2024 年 12 月 9 日．【二次】<https://it.impress.co.jp/articles/-/27204>
- [28] 織研新聞「旭化成、用途開拓や危険予知に生成 AI を活用 熟練社員のノウハウを継承」2024 年 12 月 10 日．
【二次】<https://senken.co.jp/posts/asahikasei-241210>
- [29] ITmedia ビジネスオンライン「書面の監査業務『25→12 時間』に半減 生成 AI、旭化成の活用策は？」2024 年 4 月 11 日．【二次】<https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2404/11/news018.html>
- [30] 三井化学株式会社・日本アイ・ビー・エム株式会社「三井化学、生成 AI と IBM Watson の融合による新規用途探索の高精度化と高速化の実用検証スタート」ニュースリリース, 2023 年 4 月 12 日．
<https://jp.mitsuichemicals.com/content/dam/mitsuichemicals/sites/mci/documents/release/2023/230412.pdf>
- [31] 三井化学株式会社・日本アイ・ビー・エム株式会社「生成 AI/GPT 活用により、新規用途の発見数が倍増—生成 AI/GPT と IBM Watson の融合による DX イニシアティブ—」ニュースリリース, 2023 年 9 月 13 日．
<https://jp.mitsuichemicals.com/content/dam/mitsuichemicals/sites/mci/documents/release/2023/230913.pdf>
- [32] IT Leaders「『新薬承認期間を 4 年短縮できる』、中外製薬が創薬における AI のポテンシャルを説明」2024 年 11 月 21 日．【二次】<https://it.impress.co.jp/articles/-/27132>
- [33] Google Cloud「中外製薬株式会社の導入事例」（事例制作 2025 年 3 月）．
<https://cloud.google.com/customers/intl/ja-jp/chugai?hl=ja>
- [34] MONOist「R&D や治験にも生成 AI を 中外製薬が進める生成 AI 開発／活用環境の構築」2024 年 11 月 29 日．【二次】<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2411/29/news116.html>
- [35] AI 新聞（エクサウィザーズ）「進化し続ける富士フィルムの DX 生成 AI とデジタルトラストプラットフォームで各事業のステージアップを目指す」2024 年 11 月 25 日（2026 年 4 月 24 日更新）．【二次】
<https://exawizards.com/column/management-interview/fujifilmhd2024/>
- [36] 日経クロステック（富士フィルムホールディングスの社内生成 AI 基盤に関する記事、表題・掲載日未確認）．
【二次】【未検証：本文を取得できず】<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/11080/>

- [37] 日経クロステック「パナソニックグループ、生成 AI 導入の 2 年間『RAG』の精度を高めた工夫」（掲載日未確認、2025 年 6 月頃とみられる）。【二次】【未検証：本文を取得できず、表題は検索結果の表示による】
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03184/060600036/>
- [38] パナソニック コネクト株式会社「独自開発観察駆動型 AI エージェントが生成 AI の RAG にナレッジグラフを参照して回答する新技術を開発」プレスリリース, 2024 年 10 月 3 日. <https://news.panasonic.com/jp/press/jn241003-2>
- [39] IT Leaders「パナソニック コネクト、生成 AI の回答精度を上げる独自技術、ナレッジグラフ RAG と自律 AI エージェントを併用」2024 年 10 月 4 日。【二次】<https://it.impress.co.jp/articles/-/26926>
- [40] パナソニック コネクト株式会社「パナソニック コネクト、AI 活用で総労働時間の 3.4%削減 AI エージェントの活用を拡大し 2030 年に 10%削減を目指す」プレスリリース, 2026 年 7 月 29 日.
<https://news.panasonic.com/jp/press/jn260729-1>
- [41] IT Leaders「味の素、AI Ready なデータマネジメント基盤を整備、非構造化データの利用基準を具体化」2026 年 6 月 10 日。【二次】<https://it.impress.co.jp/articles/-/29443>
- [42] EY Japan「味の素株式会社が挑む『攻め』と『守り』の AI ガバナンス——『AI-Ready なデータ整備』の実践とは」（本文に掲載日の表示なし。関連ニュースリリースは 2026 年 6 月 10 日）。
https://www.ey.com/ja_jp/insights/consulting/practical-case-studies-of-ai-ready-data-preparation
- [43] BASF, “Putting AI to work: five BASF success stories,” BASF (US), November 24, 2025.
<https://www.basf.com/us/en/media/featured-articles/technology/ai-basf-success-stories>
- [44] CHEManager, “BASF Presents Innovations for Sustainable Chemistry and Agriculture,” December 11, 2025. 【二次】<https://chemanager-online.com/en/news/innovations-for-sustainable-chemistry-and-agriculture>
- [45] Unilever, “How AI is transforming innovation in Unilever Beauty & Wellbeing,” April 27, 2026.
<https://www.unilever.com/news/news-search/2026/how-ai-is-transforming-innovation-in-unilever-beauty-wellbeing/>
- [46] Lindsey Wilkinson, “How P&G rolled out its internal generative AI model,” CIO Dive, October 18, 2023. 【二次】<https://www.ciodive.com/news/procter-gamble-PG-chatgpt-AI-openAI/697067/>
- [47] Lisa Johnston, “P&G's ChatPG Generative AI Tool Scaling Across Business,” Consumer Goods Technology, July 18, 2024. 【二次】<https://consumergoods.com/pgs-chatpg-generative-ai-tool-scaling-across-business>
- [48] AI 活用事例データベース（Arcana Technology）「旭化成の AI 活用事例（製造業／2024 年）」（掲載日の表示なし）。【二次】<https://db.arcana-tech.co.jp/case/e9485d49/>
- [49] Rimo「RAG サービス 18 選をタイプ別に比較 | 失敗しない選び方・費用・導入手順」rimo.app ブログ（2026 年 10 月 20 日更新）。【二次】<https://rimo.app/blogs/RAG>
- [50] ストックマーク株式会社「製造業特化の AI エージェント機能で工数削減／属人化解消を実現 専門業務を自動化する『技術探索/特許調査エージェント』を『Aconnect』に新搭載」PR TIMES, 2025 年 10 月 30 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000314.000024407.html>
- [51] ストックマーク株式会社「『Aconnect』の技術探索エージェントに社内情報連携機能を新搭載 蓄積された自社知見を技術/市場課題の要因仮説立てや解決策に活用可能に」ニュース, 2026 年 2 月 19 日.
<https://stockmark.co.jp/news/20260219/>
- [52] 事業構想オンライン「技術評価の暗黙知を AI で構造化 ストックマーク『Aconnect』が判断プロセスの属人化を打破」2026 年 5 月 24 日。【二次】<https://www.projectdesign.jp/articles/news/20f5056d-79f3-496f-bb5b-912ed834c9a4>

- [53] 株式会社ナレッジセンス「法人向け AI エージェント『Deep Research』機能のベータ版をリリース。ChatSense の新機能」財経新聞（プレスリリース配信）, 2025 年 5 月 7 日. <https://zaikai.co.jp/releases/2916695/>
- [54] 知的財産高等裁判所第 2 部 令和 7 年 1 月 30 日判決 令和 6 年（行コ）第 10006 号 出願却下処分取消請求控訴事件. <https://www.courts.go.jp/assets/hanrei/hanrei-pdf-93757.pdf>
- [55] 井上彰（栄光綜合法律事務所）「AI 発明者（ダバス）事件・知財高裁令和 7 年 1 月 30 日判決について」2026 年 4 月 15 日. **【二次】**
<https://www.eiko.gr.jp/law/ai%E7%99%BA%E6%98%8E%E8%80%85%EF%BC%88%E3%83%80%E3%83%90%E3%82%B9%EF%BC%89%E4%BA%8B%E4%BB%B6%E3%83%BB%E7%9F%A5%E8%B2%A1%E9%AB%98%E8%A3%81%E4%BB%A4%E5%92%8C7%E5%B9%B4%E6%9C%8830%E6%97%A5%E5%88%A4/>
- [56] 日本経済新聞「『AI が発明者』認めず 最高裁、出願者側の上告退ける」（掲載日未確認、2026 年 3 月 4 日頃とみられる）. **【二次】 【未検証：本文を取得できず、表題は検索結果の表示による】**
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUD04BAA0U6A300C2000000/>
- [57] yorozuipsc.com 掲載資料「最高裁の不受理で確定した『AI 発明』特許事件（DABUS 事件・日本）深層分析」（作成者・日付の表記なし、本文は 2026 年 3 月時点の分析）. **【二次】**
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/c7dace19bfdaf525a0ae.pdf>